

令和5年度第1回 刈谷市介護保険事業計画・刈谷市高齢者福祉計画懇話会会議録

日 時 令和5年6月20日（火） 13:30～15:50

場 所 防災会議室

委 員 塚本 世古口 宮田 福島 浅田 日下 杉浦 奥坂 二宮 角岡 長谷川 谷口 野村
高橋 近藤

事務局 加藤雄 岩見 杉山 石原 安藤 加藤良 細山 山中 野々山 阿原 羽田野 磯村
榊原 喜田
(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 植村

意見・質疑等

1 開会

2 会長あいさつ

会 長 最近の国の動向では、少子化問題においてこども家庭庁が発足し、児童手当の年齢引き上げや出産一時金の増額等少子化に対する政策が目白押しである。置き換えると、社会保障や社会福祉は、人口構造や世帯構造など社会的課題に常に向き合って変化をしていくものである。今日議論を進めていく高齢者の問題では、30年、40年と超高齢社会の中で、後期高齢者の方が非常に増加していく社会でもある。その30年、40年先のイメージを少し膨らませながら、令和6年度から始まる介護保険事業計画・高齢者福祉計画について積極的な取り組みを進められるようご意見をいただきたい。

3 委員及び事務局職員紹介

4 議題

(1) 要介護認定状況等について（資料1）

【説明】 事務局

【質疑応答】

会 長 認知症の状況について見ているが、特に85歳以上の方については、5割以上が認知症となっている。刈谷市は若い都市のため、今後後期高齢者の割合が10年先にずれ込んで増加してくることが予測される。今の段階から、他市の取り組みを参考に積極的に整備を進めていく必要がある。

委 員 刈谷市は高齢化率が比較的低いとのことであったが、医療の現場では現時点でそういった印象は無い。10年、20年先を見据えて、計画を策定してほしい。

会 長 介護の入り口として、医療関係者及び介護従事者が対応していくことになる。そのため、医

療と介護の連携が重要となる。

委 員 後期高齢者の中で年齢別に二つに分かれるのはどうか。

会 長 意図的に後期高齢者を分けている。これは、85歳を区切りとして、認定率の増加や認知症高齢者数が増加するためである。最近では国の分類としても、85歳以上を区分するようになってきている。

(2) 介護保険関係施設の整備について (資料2)

【説明】 事務局

【質疑応答】

会 長 令和3年度、令和4年度も実施してきた内容であり、令和5年度においては、興味を示す法人が出てきていると聞いている。厳正に審査をした上ではあるが、事業所の開設に繋がれば、地域の高齢者にとって多くのサービスがそろう状況となり、在宅で安心して暮らせることになる。

(3) 地域密着型サービスの利用状況について (資料3)

【説明】 事務局

【質疑応答】

会 長 定期巡回・随時対応型訪問介護看護のオレンジ刈谷について、移転後に利用者が増えているのはなぜか。

事務局 同系列の有料老人ホームからの利用者が増加したためと思われる。

委 員 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）について、ケアマネジャー業務を行う中で、待機者が多く数が不足していると感じている。

委 員 資料について、どこに着目しどういった視点で見ればよいのか。

事務局 この資料は実際の利用者数をまとめたものであり、あくまで報告である。その中で現状を知っていただき、計画等に活かしていただきたい。

(4) 介護保険サービス事業所の指定等について (資料4)

【説明】 事務局

【質疑応答】

会 長 事業の改廃については、事業運営上仕方ない事情もあると思われる。

(5) 地域包括支援センターについて

1 地域包括支援センターの概要について (資料5-1)

2 令和5年度地域包括支援センター事業計画について (資料5-2)

3 令和4年度地域包括支援センター業務実績報告について (資料5-3)

【説明】 事務局

【質疑応答】

特になし。

(6) 第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の進捗について

- 1 重点施策の実績報告について（資料6－1）
- 2 介護給付の適正化について（資料6－2）

【説明】 事務局

【質疑応答】

委 員 介護職の魅力とは何か。

事務局 介護職の魅力は感謝をもらえる仕事だと考える。本市では、介護従事者から、嬉しい事、辛い事など体験談をお聴きし、市民だよりに特集記事として掲載するなど、魅力と合わせて介護職を紹介する取り組みも行っている。

委 員 感謝をもらえるのは間違いないが、それと同じぐらい辛く苦しい事がある。また、離職率が多いことも現実的にあるため、そういったあたりを考慮してほしい。

事務局 意見をふまえ、今後検討し、周知に活かしていきたい。

委 員 認定調査員のeラーニングシステムによる全国テストについて、受講が義務であるのか。

事務局 eラーニングシステムの受講については、愛知県としても推奨しており、受講を推奨している。

会 長 介護の魅力については、若手職員の意見を聞くことも重要である。

(7) 第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の基本的な考え方と高齢者を取り巻く現状について（資料7）

【説明】 事務局

【質疑応答】

委 員 在宅高齢者の福祉サービスの周知はホームページ以外にどういったものがあるのか。

事務局 ハートページや高齢者福祉サービスといったパンフレットを作成しているが、地域包括支援センターや民生委員などに配付し、訪問時や相談時などに活用してもらい、高齢者に直接説明していただいている。

会 長 最終的には介護保険料まで検討していくことになるが、サービスが広がれば介護報酬が増加する。そうすると、介護保険料を上げざるを得なくなってくる。サービスを止めるわけではなく、効果的、効率的に介護保険の趣旨である在宅生活につながっていくとよい。

委 員 刈谷市は介護認定率も低いことから、自分自身で生活できている方も多い印象である。そうした点で言えば、介護予防の施策などの効果があるように思う。

事務局 いろいろな分析の考え方があるため、高齢化率が低いことで安堵することなく、先を見据え

て検証していく。

委 員 知立市は介護保険料が低い。刈谷と知立との差は何があるのか。

事務局 高齢者等の人口が違ふことがあげられる。また、サービス事業者の数や利用状況、サービスを使う利用者数などの影響が大きく表れており、需要と供給のバランスによるものである。介護保険料については、7期計画から8期計画にかけて据え置きとしているが、他市においては値上げ等を行っている。サービスの質にも影響するため、9期計画については、アンケート調査等を参考に利用動向や財源分析を重ね、適切な金額を算定していく。

(8) 高齢者等実態調査の結果について(資料8)

【説明】 事務局

【質疑応答】

委 員 医療と介護の連携について、8ページの(10)はACPの話になると思うが、ACPは元気なうちに決めておくことが重要である。元気な高齢者に対して考える場や機会を作っていてほしい。また、事業所のICT化について、労働力の代替にもつながるため、費用の負担を検討してほしい。

事務局 エンディングノートや終活ノート等が話題になっている中、市としてやれることを検討していく。また、ICT化の費用負担についても国や愛知県等による取組や制度を活用し、周知及び利用促進を図っていく。

(9) 介護予防事業について(資料9)

【説明】 事務局

【質疑応答】

特になし。

5 その他

事務局 次回の開催について、令和5年9月14日(木)午後1時30分からとさせていただきます。また詳細は改めて通知する。

6 閉会

会 長 本日の議題については、これですべて終了した。最後の議題8、9については、今後は老老世帯が増加する社会となるなか、ケアマネジャーとしても24時間対応することは難しい。安否確認といった面でもICT化が重要となってくる。また、ACPの普及については、前期高齢者へのフレイル予防と併せて進めていくことが重要である。これにて令和5年度第1回の刈谷市介護保険事業計画・刈谷市高齢者福祉計画懇話会を閉会とする。